

項目	内容
名称	ステビア [英]Stevia、Paraguayan sweet herb [学名]Stevia rebaudiana (Bertoni) Hemsl.
概要	<p>ステビアは、高さ80 cmの多年草。16世紀からパラグアイでマテ茶の甘味料として使用され、世紀になってからその他の南米諸国やアジアで広範囲に使用されるようになった。パラグアイ、ブラジル、日本、韓国、タイ、中国で商業生産されている。</p>
法規・制度	<p>■ <b>食薬区分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 葉：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。</li> </ul> <p>■ <b>食品添加物</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存添加物 <ul style="list-style-type: none"> <li>ステビア抽出物（ステビアエキス/ステビオシド/レバウジオシド/ステビア/ステビア甘味料）：甘味料</li> <li>ステビア末（ステビア）：甘味料</li> </ul> </li> </ul> <p>■ <b>海外情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米国では、GRASに該当する。</li> </ul>

成分の特性・品質	
主な成分・性質	・ステビアの主成分はステビオサイド (stevioside) で、これは熱や酸に安定で、ノンカロリーで10%ショ糖液の100倍甘い。他の成分としてはβ-シトステロール、スチグマステロール、タンニン、精油がある。
分析法	・品質の指標として、ステビオサイドとレバウディオサイド (rebaudioside) AはNH <sub>2</sub> -カラムを用いたUV-HPLCにより分析されている ( <a href="#">PMID:11599985</a> )。
有効性	
循環器・呼吸器	<p><b>メタ分析</b></p> <p>・2014年5月までを対象に5つのデータベースで検索できた二重盲検無作為化プラセボ対照試験9報について検討したメタ分析において、成人によるステビア、ステビオサイド、レバウディオサイドAの摂取は、拡張期血圧 (7報)、空腹時血糖 (76報) の低下と関連が認められた。一方、収縮期血圧 (7報)、TC (6報)、LDL-C (4報)、HDL-C (6報) に影響は与えず、TG (5報) の増加と関連が認められたが、いずれも試験によるばらつきが大きかった (<a href="#">PMID:25412840</a>)。</p> <p><b>RCT</b></p> <p>・健康成人100名 (試験群50名、平均42.1±1.9歳、アメリカ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、レバウディオサイド (rebaudioside) Aを1,000 mg/日、4週間摂取させたところ、血圧、心拍に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:18555574</a>)。</p> <p>・軽度の高血圧患者168名 (試験群82名、平均52±7歳、中国) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ステビオシド500 mg×3回/日を2年間摂取させたところ、血圧、左心室肥大リスクの低下が認められたが、心拍、BMI、血糖値、血中脂質に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:14693305</a>)。</p>
ヒト	
で	
の	
評価	
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	<p><b>RCT</b></p> <p>・2型糖尿病患者30名 (平均58.2歳、試験群15名、パラグアイ)、健康な成人30名 (平均28.1歳、試験群17名) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ステビオールグルコシド250 mg×3回/日を3ヶ月間摂取させたところ、BMI、血圧、血糖値、インスリン濃度、HbA1c、血中脂質に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:18397817</a>)。</p>
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について)  
(2000143079) 日本皮膚科学会雑誌. 2000;110(2):190.  
[\(PMID:11599985\) J Agric Food Chem. 2001 Oct;49\(10\):4538-41.](#)  
[\(PMID:14693305\) Clin Ther. 2003 Nov;25\(11\):2797-808.](#)  
[\(PMID:8042003\) Res Commun Chem Pathol Pharmacol. 1994 Apr;84\(1\):111-8.](#)  
[\(PMID:9033821\) Braz J Med Biol Res. 1996 May;29\(5\):669-75.](#)  
[\(PMID:8569236\) J Ethnopharmacol. 1995 Jul 28;47\(3\):129-34.](#)  
[\(PMID:9806223\) Life Sci. 1998;63\(19\):1679-84.](#)  
[\(PMID:9492187\) Microbiol Immunol. 1997;41\(12\):1005-9.](#)  
[\(PMID:7616317\) J Nutr Sci Vitaminol \(Tokyo\). 1995 Feb;41\(1\):105-13.](#)  
[\(PMID:8962427\) Mutagenesis. 1996 Nov;11\(6\):573-9.](#)  
[\(PMID:3887402\) Proc Natl Acad Sci U S A. 1985 Apr;82\(8\):2478-82.](#)  
[\(PMID:10619379\) J Ethnopharmacol. 1999 Nov 1;67\(2\):157-61.](#)  
[\(PMID:9598301\) Drug Chem Toxicol. 1998 May;21\(2\):207-22.](#)  
[\(PMID:1921423\) J Ethnopharmacol. 1991 Jul;33\(3\):257-62.](#)  
(2003197267) J Toxicol Sci. 2002; 27(Suppl.I ):2-8.  
(1985158450) 食品衛生学雑誌. 1985;26(2):169-83.  
[\(PMID:18555574\) Food Chem Toxicol. 2008 Jul;46 Suppl 7:S40-6.](#)  
[食品安全情報 \(化学物質\) No. 9/ 2010](#)  
[EFSA evaluates the safety of steviol glycosides](#)  
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)  
[\(PMID:18397817\) Regul Toxicol Pharmacol. 2008 Jun;51\(1\):37-41.](#)  
[Epub 2008 Mar 5.](#)  
[\(PMID:25412840\) Eur J Prev Cardiol. 2015 Dec;22\(12\):1575-87.](#)  
[\(PMID:29655729\) Food Chem. 2018 Aug 30;258:245-253.](#)  
(101) J Med Assoc Thai. 2019;102(Suppl 6):100-4.  
[\(PMID:30714173\) J Clin Pharm Ther. 2019 Jun;44\(3\):381-383.](#)  
[\(PMID:10690946\) Metabolism. 2000 Feb;49\(2\):208-14.](#)  
[\(PMID:14561506\) Phytochemistry. 2003 Nov;64\(5\):913-21.](#)  
[\(PMID:14681850\) Metabolism. 2004 Jan;53\(1\):101-7.](#)